

災害ボランティア活動報告 (No.19)

活動場所:宮城県亙理郡山元町作田山 (被災農家: 斎藤様の農地)

活動内容:今回は、作業が多いので4班に分け、男性陣は、ハウスとハウスの間の小石取り作業と防風ネットを張る杉の木の皮剥き、それに、畑に肥料を撒く作業の班に分けられました。女性陣と子供たちはビニールハウス内でパプリカの支柱立て作業と、その支柱にパプリカを留める作業をしました。

参加者:メンバー (木下史典、森本次郎、岩瀬清、大久保隆史、広瀬義積、榎戸孝行、竹下萌)、一般参加、ネット参加の皆様。(合計40名)

活動報告:『親子で震災ボランティア体験』in MIYAGI、ボランティアバス第8弾です。

今回も、斎藤さんの農地に行きました。同じ所に行くのも『心の交流』『顔の見える支援』『ボランティアの成果が見える、足跡の見える支援』を心がけているためです。

復興支援と言っても、そんな大げさなものではなく、初めての参加者同士がワイワイ言いながら和気あいあいとボランティアさせて頂いています。

行程:総勢40名で、5月24日金曜日の夜に、千葉県四街道発で、西船橋駅、錦糸町: 錦糸公園経由で現地山元町へ向かいました。

5月25日土曜日、今回は、朝の朝食がまた吉野家になりました。(早朝からやっている所がないため。) 前は80人と大勢だったため、入りきれないのと時間がかかるので、無理してビジネスホテルにお願いしたのですが、40名のため戻りました。牛丼がお安くなったので助かります。



※今回参加された40名の皆さんの集合写真です。(前列左から2・3番目の方が斎藤夫妻)



※被災現場:津波で破壊された防波堤も以前は『なかなか復興が進んでないなあ。』と感じたのですが、今年になって急激にピッチが上がり、前回来た時から工事も進み、もう少しで完成の処まで来ているようです。右の写真は、バスの中から工事のダンプで渋滞しているところを撮りました。以前には見られなかった光景です。『国交省』や『林野庁』などの横断幕を着けた復興事業のダンプカーで大渋滞です。

公共工事が進んでも、被災者の方々の生活再建は容易ではありません。そこで、グリーングリーンでは、山元町の農家、斎藤さんご夫妻との出会いをきっかけに継続的に応援して行くことを決めました。



※作業風景:写真上段左から、男性陣の小石取り班、杉の木の皮剥ぎ班、下段左：畑の肥料散布班。下段右：女性陣と子供たちはハウス内作業です。



※お昼は地元の魚屋さん『たけだ』のお弁当、皆さん美味しいとのことで次回もたけださんで決定です。

右は、斎藤さんの所にボランティアに来ていた NPO 法人 ハンズオン東京の皆さんです。日本人と外国人が共に手をたずさえ、意義のあるボランティア活動に参加する機会を提供する NPO 法人だそうです。今回 8 人で参加されておりました。外国人の方もおられ日本のために感謝です。私たち日本人も頑張らなければなりません。

※復興支援:被災地で収穫された農産物の販売や紹介を行う復興物産展の開催を考えており。斎藤さんにパプリカやナスの販売の件をお話すると、今年は農地を 4 ヘクタール借りお米作るとのことです。お米なら保存が効き販売しやすいですと伝えると、グリーングリーンの皆さんにもお裾分けして下さるとの事。秋の収穫期が楽しみです。

それと、会員の竹下さんがガールズプロジェクトで、山元町のいちご産産をガールズ向けに PR し復興を支援したいとお話されておりました。有難いことです。復興の輪が広がることを期待します。感謝。



※写真左：活動終了の挨拶で、最後にボーイスカウトの四街道第一団の皆さんがセレモニーをして下さいました。カッコ良かったですよ、有り難うございました。写真右：帰りのバスの中での意見交換会、お子さんと一緒に感想を述べて頂きました。本当のクライマックスは意見交換会です。多くの皆様に、和気あいあいと活動できましたと言って頂きました。多くの縁を結んで頂ければボラバスは大成功です。そして、また来たいと言って頂きました。有り難うございます。第 9 回：第 10 回も開催が決定しております。 以上